

昔話「桃太郎」に見られる  
洗濯する女の伝承について

金 鳳齡

Tradition of the washing women seen in old tale  
"Momotaro"

Fengling JIN

摘要

日本著名的传说故事《桃太郎》的故事遍布于日本各地，家喻户晓。关于桃太郎的版本成立、鬼岛征伐以及征伐伙伴等有很多的先行研究。但是，关于桃太郎里“洗濯”老姬的研究却很少，也没有研究涉及到“洗濯”与桃太郎的诞生的关系。因此，本论文欲从“洗濯”老姬与水的神奇生殖力量的角度解释桃太郎的诞生，将日本与中国、朝鲜半岛等东亚各国关于“洗濯女”的神话与传说故事进行比较研究，把握“洗濯女”在东亚，在日本的传承，最终证明《桃太郎》中的“洗濯”老姬亦是东亚“洗濯女”传承的结果，其背后流淌着的是水的生殖力以及带来丰饶的力量。

0. はじめに

昔話「桃太郎」は日本の代表的な昔話であり、その類話はほぼ全国各地に分布しており、主人公の誕生や鬼が島征伐などをめぐっていろんなバリエーションをもっている。そして、「桃太郎」は文学、神話、民俗、教育などの方面でさまざまな研究が行われたが、「桃太郎」の中でよく登場する洗濯する老嫗についての研究はあまり見えない。その中で、石田英一郎が、研究の中で、桃太郎の母を大地母神と解釈しているが（注1を参照。）、まだより厳

密な研究と分析が必要だと考える。主人公の誕生するモチーフによく出てくる洗濯する婆や桃が流れてくる川（水）の力は東アジアにおける洗濯する女、出産、誕生の水の霊力の伝承と深く係わっていると筆者は考える。

本論では、「桃太郎」の中に登場する洗濯する老嫗や桃太郎の誕生モチーフを中心に分析し、洗濯する老嫗の伝承をも探求したい。具体的には、「桃太郎」の分布と発端を検討しつつ、其の中の水辺の女、洗濯する水の女の伝承を把握し、中国や朝鮮半島の水辺の女のイメージとの比較対照を通して、其の淵源には、豊饒をもたらす水の力があることを究明したい。

### 1. 先行研究と問題提起

「桃太郎」についての研究はさまざまな方面で行われ、研究著作と論文は五、六百を上回る。文学、神話、民俗、教育などの方面で行われてきたが、上記にも言ったように、洗濯する婆の伝承についての研究はあまり見えない。

石田英一郎は、桃太郎や一寸法師など、人類太古の大地母神の信仰と相つらなるものがら。これら《小さ子》の背後にひそむ母性の源流は、遠く古代ユーラシア大陸の原始大母神とその子神とにさかのぼることをしめすと言う。日本の小さ子が、その母神とともに、とくに水辺に出現することの多いのを、世界の大母神が、月や死界や牝牛や龍蛇の類とともに水に結びつき大地はその豊饒力を水に負うので、太古の大地母神はまた水の神であり、桃太郎のはは大地母神である。即ち、地母神と「桃太郎の母」とを同一化している<sup>注1</sup>。しかし、大地母神として「桃太郎」の中に出る洗濯する婆を定義するのは、すこし解釈しにくいところがある。また、山崎祐子は、従来、日本で洗濯ということは、衣服を洗う意味のみでなく、本来信仰的性格が強く、水辺で沐浴し、衣服を清浄にして宗教行事に参加するというのが本義であったと言っている<sup>注2</sup>。

鎌田久子も、洗濯について、「洗濯の対象となるものは衣服・寝具・家具などがあり、その価値を知ることによって頻々と行われるようになったのであろうが、本来は信仰的色彩が強い。すなわち、神を祀るための潔斎がそれ

である」と述べている<sup>注3</sup>。

総じて言うと、山崎祐子と鎌田久子の研究では、洗濯には衣服を洗うのみではなく、水辺で沐浴することをも含み、神を祀るための清潔活動にもなると言っている。「桃太郎」にも、洗濯する伝承がみえるが、「桃太郎」の中で洗濯は、どんな意味で伝承されたか、日本における、延いては、東アジアにおける洗濯する女はどんな意味をもっているのか、探求してみたい。

## 2. 文献に書かれた「桃太郎」と物語の流れ

「桃太郎」の版本について体系的に紹介したのは、金田芳水<sup>注4</sup>、小久保桃江<sup>注5</sup>、山崎麓<sup>注6</sup>、滑川道夫<sup>注7</sup>らの著書がある。中でも、滑川道夫は金田芳水、小久保桃江、山崎麓らの紹介した「桃太郎」版本に自身の調査を兼ねて、江戸期における「桃太郎」の赤本、黄表紙などの草双紙は八十二点を越えるという。桃太郎の最初の版本は享保八年の豆本だと言われたが<sup>注8</sup>、小久保桃江は「桃太郎の誕生は、せいぜい今から三百年前の延宝のころから元禄をへて享保のころまでの五十年間の間に完成したのではないかということが著書などから考えられる。」と述べている。金田芳水が享保八年刊の豆本『もゝ太郎』を最初の版本、藤田秀素筆『桃太郎』を二番目の版本として紹介しているのに対して、小久保桃江は『桃太郎』（年代は延宝年間か、赤本で著者は未詳）を最初の版本として言い、『桃太郎話』（元禄前か、著者未詳）を二番目に、『桃太郎昔語り』（元禄のころか、赤本で著者未詳）を三番目の版本として、四番目に豆本『もゝ太郎』をおいたのである<sup>注9</sup>。

ところで、調べたところ目前『桃太郎』（延宝年間刊）と『桃太郎話』（元禄前？）は見つからなかったもので、現在はすでに無くなった可能性もあると考える。現在手に入れられた代表的であり、時期的にもかんげんの限り、もっとも早いものとして、『桃太郎昔語り』と『桃太郎』の内容を概観してみよう。

『桃太郎昔語り』<sup>注10</sup>

二冊。十丁。赤本。西村重信画。刊年について、小久保桃江は元禄ころ、滑川道夫は享保のころ、近世文学研究「叢」の会は刊年不明と言ってい

る<sup>注11</sup>。鱗形屋板。安永六年再板。

男の子五人が火鉢を囲んで、その中の一人が語りである。爺は山へ柴刈に、婆は川へ洗濯に行く。婆は爺に食べようともう一つ流れてこいと桃を呼ぶ。爺と婆は桃を食べ、若返り、婆は子を孕み生むことになる。爺は桃が子になったといい、桃太郎に名づけた。犬、猿、雉と鬼が島へ行き、鬼を征伐し、宝物を得る。最後の場面では、桃太郎が爺婆の前で打出の小槌で金銀を出している。

『桃太郎』<sup>注12</sup>

赤本。享保ころ刊。藤田秀素筆。稀書複製会から復刻版が出された。代表的な桃太郎話である。爺は山へ柴刈に、婆は川へ洗濯に行く。桃を拾い、帰って、爺と食べると、二人は若返り、婆は妊娠して、桃太郎を生む。桃太郎は力持ちになる。爺婆にきび団子を作ってもらい、団子を与え、犬、猿、雉と供になって鬼が島へ行く。鬼を征伐し、たくさんの宝物を得る。

この二つとも、「回春型」に属するが、江戸時代において、こういう「回春型」が文献的に先行し多く行われてきた<sup>注13</sup>。

### 3. 昔話「桃太郎」——その分布と物語の発端を中心に

口承話としての「桃太郎」を見てみよう。

「桃太郎」の類話を見ると、ほとんど婆が洗濯に行き、川上から流れてくる桃を得て、桃から子供が生まれる「果生型」と一部の「回春型」<sup>注14</sup>と外の形の誕生モチーフが見られる。

『日本昔話通観』の典型話を例にすると

#### 例話①

爺は山へ柴かりに行き、婆は川へ洗濯に行った。洗濯しるところ、大きな桃が流れてきた。持ち帰って、爺が帰ってくると爺に桃のことを言う。二人で割って食べようとする。そしたら、桃はひとりでに割れ、太い大きな男の子が生まれてくる。その子は力の強い子で、鬼が島へ鬼退治に行くと言い、吉備団子を作ってもらって出かける。途中、犬、猿、雉に団子を与えて、鬼

が島へ連れて行く。鬼が島で鬼を征伐し、金銀などを車に積んでかえる。（徳島県美馬郡一宇村奥大野 稲田浩二・小沢俊夫編『日本昔話通観』第二十一卷徳島香川 同朋舎 一九七八年十一月十五日 一五二～一五三頁を参照し、まとめた。）

例話②

爺は山へ木を取りに、婆は川へ洗濯に行く。川から桃が二つ流れてくる。婆は桃を拾って持ち帰り、爺と食べたなら若返り、子ができる。桃から生まれたので、桃太郎と名づける。桃太郎は七つの年に爺と山へ行き、大石を動かしたりするほどの力持ちになる。後、鬼退治に行くことになり、爺婆にときび団子を作ってもらって出かける。雉、犬などにときび団子を与えて、供にする。山の奥の鬼の所に行き、供たちと力を合わせて鬼退治をして帰ってくる。（香川県仲多度郡多度津町佐柳島長崎 稲田浩二・小沢俊夫編『日本昔話通観』第二十一卷徳島香川 同朋舎 一九七八年十一月十五日 一五五頁を参照し、まとめた。）

上の例話を見ると、同じ洗濯に行き、桃を得るが、桃から生まれるものと桃を食べて若返って子を孕むものに分けられている。無論、洗濯のモチーフが無いものもある。

以下、まず全国の分布状況を一望して「桃太郎」という話型群の全体的分布を概観し、分類の項目は誕生モチーフを中心にした。

図表の中で、

合：合計

洗濯一：川で洗濯する時得た桃から生まれたもの

洗濯二：川で洗濯する時得た桃を食べて生まれたもの

外：外の形の誕生のモチーフ

無：誕生のモチーフ無しと表記した。

金 鳳齡「昔話「桃太郎」に見られる洗濯する女の伝承について」

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	栃木	群馬	茨城
0	合6 洗濯一6 洗濯二外無	10 洗濯一9 洗濯二外無	2 洗濯一1 洗濯二外無	9 洗濯一7 洗濯二外無	20 洗濯一20 洗濯二外無	19 洗濯一19 洗濯二外無	6 洗濯一6 洗濯二外無	15 洗濯一15 洗濯二外無	12 洗濯一12 洗濯二外無
埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
22	24 洗濯一24 洗濯二外無	11 洗濯一11 洗濯二外無	1 洗濯一1 洗濯二外無	10 洗濯一10 洗濯二外無	5 洗濯一5 洗濯二外無	5 洗濯一5 洗濯二外無	3 洗濯一3 洗濯二外無	14 洗濯一14 洗濯二外無	7 洗濯一7 洗濯二外無
岐阜	静岡	愛知	京都	三重	滋賀	大阪	奈良	和歌山	兵庫
16	5 洗濯一5 洗濯二外無	8 洗濯一8 洗濯二外無	3 洗濯一3 洗濯二外無	1 洗濯一1 洗濯二外無	0	0	0	0	21 洗濯一20 洗濯二外無
鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
7	47 洗濯一47 洗濯二外無	20 洗濯一15 洗濯二外無	17 洗濯一15 洗濯二外無	4 洗濯一4 洗濯二外無	4 洗濯一2 洗濯二外無	5 洗濯一2 洗濯二外無	4 洗濯一4 洗濯二外無	2 洗濯一1 洗濯二外無	1 洗濯一1 洗濯二外無

佐賀	大分	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄	全国 合計		
6	2	10	0	0	1	0	385話		
洗濯一 6 洗濯二 外 無	洗濯一 2 洗濯二 外 無	洗濯一 10 洗濯二 外 無			洗濯一 1 洗濯二 外 無				

（本研究では、類話を統計、分類するに当たり、「瓜子姫」と同資料を使用した。全国で385話の「桃太郎」の資料を調べた。）

分布表から見られるように、昔話「桃太郎」は、北海道、滋賀、大阪、奈良、和歌山、熊本、宮崎、沖縄を除いて、全国にわたって分布している。

統計してみると、

合計：385話

洗濯一即ち、川で洗濯する時得た桃から生まれたものが363話、

洗濯二：川で洗濯する時得た桃を食べて生まれたものが5話、

外の形の誕生のモチーフが3話、

誕生のモチーフ無いのが、14話になっている。

同じ異常誕生譚、子授け話として、「瓜子姫」より少し遅れて発生したと考えられるか「桃太郎」は、主人公の誕生のモチーフにおいて、385話の内、洗濯のモチーフが入っているのが、368話になり、中の一部は婆が桃を食べ、回春し、子を孕む例も見られる。同じ子授け話として、「瓜子姫」が婆が洗濯から拾った瓜から生まれるのと爺が畑からとった瓜から生まれるものに分かれているのに対して<sup>註15</sup>、「桃太郎」ほぼ全部の類話に婆の洗濯というモチーフ入っていて、それが「果生型」と「回春型」とに分けられている。

「果生型」と「回春型」とに分けられているのは、さておき、まず子授け話として、「桃太郎」は、婆の川での洗濯と言うことは、欠けられない要因とみられる。水辺、洗濯、老婆と子授けにどのような具体的な関わりがあるかについて究明するために、東アジア全般における洗濯する女、水辺の女の

伝承を辿ってみる必要がある。

#### 4. 東アジアにおける洗濯する女

東アジアにおける洗濯する女については既に前の研究論文で詳しく述べたことがある<sup>注16</sup>が、「桃太郎」の中の洗濯する女の伝承を究明するためには、もう一度たどり、比較する必要がある。

概観すると、東アジアにおける水辺の洗濯する女はみな縁が結ばれたり、孕んだり、子を授かったりしている。

まず、朝鮮半島からみると、不思議なことに「瓜子姫」や「桃太郎」の類話分布と大変似ている伝承があった。新羅末期の有名な僧侶であり、風水師でもある道誂の誕生説話をみると、代表的な洗濯する女が洗濯する時、桃や瓜などを食べ、妊娠し、子を孕む説話である。

全羅南道咸平郡新光面で採集された話をみると、道誂の母が河辺で洗濯する時、流れてきた桃を見て、洗濯棒でひっかけたら、桃がこちらにやってきたので、食べたなら妊娠したという。結婚もしてない処女が子を孕んだので、恥ずかしく思い、橋の下に子を捨てたが、翌朝みると、鳩たちが覆っている。（『韓國口碑文学大系』6-2<全羅南道咸平郡篇>語文研究室編 正和印刷文化社 一九八一年十一月三十日 七三五~七三七頁により、抄訳した。）『旬五志』、『世宗実實地理志』にも出ている道誂の誕生説話は、外にも、道誂國師の母が処女であるとき、洗濯に行き、流れてきた胡瓜や瓜などを食べ、孕んだ説話は、全羅南道・高興郡・占岩面一話、全羅南道・和順郡・道岩面一話、清豊面二話、道谷面一話、京畿道・甕津郡一話、春陽面一話など多数ある。（『韓國口碑文学大系』6-3<全羅南道 高興郡篇>韓國精神文化研究室語文研究室編纂、高麗苑一九八四年十二月三〇日と『韓國口碑文学大系』6-10<人文研究室語文分野>高麗苑一九八七年十月三〇日により、まとめた。）道誂の誕生譚は隨筆集のみでなく、全羅南道など各地に分布しているのである。

また、無学大師の誕生譚も洗濯する女、瓜と直接かかわっている。無学大



師の母は、兩班の家の娘であったが、ある日、侍女たちと川へ洗濯に行くことになったが、侍女たちがみんな逃げ去り、一人になった時、胡瓜が流れてきたので、拾い、食べたらずむことになったという話である。（韓国精神文化研究室語文研究室編纂『韓國口碑文學大系』4-4〈忠清南道保寧郡篇〉高麗苑 一九八三年九月三十日より、抄訳した。）

外に、『旬五志』に出る黎勇士もその母が洗濯に行った時、流れてくる瓜を食べて孕んで生まれたのである。そして、魚氏始祖誕生の説話をみると、女が川辺で洗濯している時、大鯉がやってきて、腰を強く打ち、また、水の中に入っていった。次の日から、女は妊娠し、その後、きれいな男の子を生むということである。（後略）（崔常壽 著『韓國民間傳説集』通文館 檀紀四二九九年三月十五日八九～九十頁により、抄訳した。）外にも、洗濯する女と始祖誕生の物語があるが、紙面の関係で省略する。

上記以外にも、朝鮮の君王たちが川辺で洗濯する少女に出会い、結ばれる例がしばしばある。朝鮮の開国王である李成桂と洗濯する女は川辺で出会い、縁になり、後日、女は王后になる。高麗太祖と莊和王后、燕山君と洗濯する女もみな少女が洗濯する時、王と出会い、結ばれたり、結婚することになったり、孕んだりする。

中国の神話、伝説にも洗濯する女の例が多い。代表的なものを簡単に辿ってみよう。

『太平廣記』卷第六十一 女仙六 褒女

褒女という女が、漢水と沔水の間に住んでいた。十五歳で嫁ぐ時になり、常に浸水において洗濯をしていた。ある日、雲が集まり、雨が降ってきた<sup>注31</sup>。彼女は感応し、孕んだ。親は彼女をとがめ、彼女は苦しくて、病気になった。臨終になった時、彼女は「私が死んだ後、埋葬する時、牛車で西山の頂上へ送ってください。」と言い、死んだ。村の人は寺社を建てて彼女を祭った。水害や旱があった時、彼女に祈ると効能があった。（『太平廣記』第二冊 李昉等編 中華書局 一九六一年九月 三八一頁により、抄訳した。）

『太平廣記』卷第四百一十八 龍一 張魯女

張魯の娘が嘗て山の下で衣服を洗っていたが、白霧が身の周りを覆い、孕んだが、其の後、恥じて自殺しようとした。死ぬ前に、侍女に「私が死んだら、お腹を開けてみよ」と言った。侍女が言われたとおり、開けると、中から二匹の龍の子が出たので、漢水に放し、娘は山の中に埋葬した。後に、多くの龍たちが集まり、その墓の前は溪流になった。（『太平廣記』第九冊 三四〇一～三四〇二頁により、抄訳した。）

『太平廣記』卷第四百二十五 龍八 長沙女

長沙に名は忘れたが、ある人がいた。家は川辺にあった。娘の一人が川辺で洗濯する時、感じて孕み、生まれたものは蝦か魚のようなものであった。が、自分が生んだので、とてもかわいがった。樽に入れて育てるが、大きくなったら、蛟だということが分かった。（後略『太平廣記』卷第四百二十五 龍八長沙女より、抄訳した。）

また、土家族の神話では、「卵玉娘娘」は河辺で八個の桃と一朵の桃花を飲み込み、三年六ヶ月孕み、八人の息子と一人の娘を産んだ。それからこの世には人間ができたという。（王宪昭「中国少数民族感生神话探析」『理論学刊』二〇〇八年六月）

『山海經』第七・海外西經

女子國在巫咸北，兩女子居，水周之。一曰居一門中。郭璞云：有黃池，婦人入浴，出即懷妊矣。若生男子，三歲輒死。（袁珂校注『山海經校注』上海古籍出版社一九八〇年七月 二二〇頁）

女子國は巫咸の北にあり、二人の女が住み、水が二人をめぐっている。郭璞注では、黄池があり、婦人が入浴すると、出たらずぐ孕む。もし、男の子を生んだら三歳になると死ぬ。

『通典』卷第一百九十三 邊防九

又聞西有女國、感水而生。（唐杜佑撰『通典』校點本五 中華書局一九八八年十二月五二六六頁）

又西に女國あるそうで、水に感じて生む。

『通典』卷第一百八十六遼防二 東夷下 東沃沮

又言有一國亦在海中，純女無男人。或傳其國有神井，闕之輒生子。（唐杜佑撰『通典』校點本五 中華書局 一九八八年十二月 五〇二一頁）

海中に女人国あって、男はいない。あるいは伝えて、その国に神井あり、これを闕うにすなわち子を生じると云う。

『梁書』卷五十四 列傳第四十八 東夷

扶桑東千餘里有女國，容貌端正，色甚潔白，身體有毛，長發委地，髮長委地，至二、三月，競入水則妊娠，六七月產子。女人胸前無乳，項後生毛，根白，毛中有汁，以乳子，一日能行，三四年則成人矣”（唐姚思廉 撰『梁書』北京：中華書局一九七三年五月 八〇九頁）

外にも、『史記』、『梁書』、『淮南子』などにいろいろ例がみられるが、ここでは詳しく扱わない。

上記の例をみると、洗濯する女は、洗濯する際、果物などを食べたり、服を洗ったり、入浴したり、水と感応したり、延いては、水を窺ったり、水辺にいただけでも、子を授かったり、縁が結ばれたりすることが分かる。それは、みな洗濯する女と深くかかわっており、其の淵源には、出産、誕生を助ける水、豊饒をもたらす水の力が窺える。

朝鮮半島と中国のみではなく、日本の神話、伝説にも洗濯する女の伝承はあった。しかも、それは『古事記』から『御伽草子』まで、絶えず伝承されてきたのである。がいかんしてみよう。

まず、『古事記』における洗濯する女の例を挙げると、

雄略天皇の求婚譚の一つで、天皇は美和河のほとりで衣服を洗っている引田部赤猪子を見かけ、近く宮廷に召し出すことを約束するが、天皇はその約束を忘れてしまい、八十年過ぎてしまう。赤猪子は、その気持ちを訴えようと、天皇のもとに参ずる。天皇はかつての約束を思い出し、歌をもって慰めようとする。これに対して、赤猪子は同じく歌をもって天皇を祝福し、贈り物を下賜されて帰って行く。二人は最終的に結ばれなかったが、因縁のある話である。（『古事記』下巻 日本古典文学大系1 倉野憲司校注 岩波書店 昭

和三十三年六月五日 雄略天皇 引田部の赤猪子 三百十一頁)

また、衣服を洗濯するのではないが、雄略天皇は吉野川にいる童女に出会い、縁になった例もある。即ち、尊い人と娘が水辺で結ばれた縁なのである。

また、『風土記』にも洗濯する女の伝承がみられる。

山城國 賀茂社のところにみると、玉依比賣が石川の瀬見の川で遊ぶ時、川上から流れてきた丹塗矢に感じて孕むことになったということであるが、同じ物語は『秦氏本系帳』にも出ている。(『風土記』日本古典文学大系 2 秋本吉郎校注 昭和三三年四月五日四一四頁)

興味深いのは、『秦氏本系帳』では、川で遊ぶということが、川で衣裳を洗濯することとなっている。

『本朝月令』「四月中西賀茂祭事」に引く『秦氏本系帳』には、次のように書いている。

志貴島宮御宇天皇の御世に、天下国を挙りて風吹き雨零りき。爾の時に、卜部伊吉若日子に刺して、卜なはしむ。乃ち、賀茂神の崇なり。四月の吉日を撰ひて、馬に鈴を繫け、人猪の影を蒙りて駆馳す。以ちて祭祀を為し、能く禱祀らしむ。因りて、五穀成就りて、天下豊年なり。馬に乗るは、此に始まり。又云はく、初め秦氏女子、葛野河に出でて、衣裳を洗濯しし時に、一の矢有りて上流より下りき。女子取りて還り来、戸の上に刺し置く。是に、女子、夫無くして妊む。既にして男子を生む。父母恠しみて、責め問ふ。爰に、女子答へて曰はく、「知らず」といふ。再三詰め問ひ、日月を経ると雖も、遂に「知らず」と云ふ。父母以謂へらく、「然あれども、夫無くして子を生む理無し。我家に往来せる近親眷属、隣里の郷党の中に、其の夫在るべし」とおもふ。茲に因りて、大饗を弁備へて、諸人を招き集め、彼の児をして盃を執らしむ。祖父母命云ひたまはく、「父と思はむ人に献るべし」といひたまふ。時に、此の児、衆人を指さずして、仰ぎ觀、行きて戸の上の矢を指す。即便ち、雷公と為りて、屋の棟を折り破りて、天に升りて去にたまふ。故、鴨上社を別雷神と号け、鴨下社を御祖神と号く。戸の上の矢は松尾大明神、是なり。是を以ちて、秦氏、三所の大明神を奉祭る。(後略 沖森卓也・

佐藤信・矢嶋泉編著『古代氏文集 住吉大社神代記・古語拾遺・新撰亀相記・高橋氏文・秦氏本系帳』山川出版社 二〇一二年四月二十五日 三〇二～三〇四頁）

『今昔物語集』における洗濯する女

『今昔物語集』巻第十一 久米仙人、始造久米寺語第二十四には、久米仙人が、大和の竜門寺で飛行の仙術を修業中に、吉野川の川辺で洗濯している女の雪のような白い脛に見ほれて墜落する。その女を妻として俗界に暮らすのが、のちに高市郡に都造営のとき、材木を運ぶのに空を飛ばせた功によって免田三十町を与えられ、久米寺を建立したという話がある。

（池上洵一校注『今昔物語集』三 新古典文学大系35、岩波書店一九九三年による。）

『伊勢物語』における洗濯する女

四十一段

昔、女はらから二人ありけり。一人はいやしきおとこの貧しき、一人はあてなるおとこもたりけり。いやしきおとこもたる、十二月のつごもりに、袍を洗ひて、手づから張りけり。心ざしはいたしけれど、さるいやしきわざもならはざりければ、袍の肩を張り破りてけり。せむ方もなくて、たゞ泣きけり。これを、かのあてなるおとこ聞きて、いと心苦しかりければ、いときよらなる緑衫の袍を見出でてやるとて、

78 紫の色こき時はめもはるに野なる草木ぞわかれざりける武蔵野の心なるべし。（堀内秀晃・秋山虔校注『竹取物語・伊勢物語』新日本古典文学大系十七 岩波書店 一九九七年一月二十八日 一一九～一二〇頁）

洗濯している女をかわいそうだと思い、美しい袍を贈り、歌を詠んでやる男と洗濯する女の話である。

日本においても、洗濯する女、水辺の女の伝承は古事記から始まり、御伽草子まで繋がっている。本稿では、言及しなかったが、昔話「桃太郎」や「天人女房」の話にも洗濯する女の伝承は明確にみられるのである。

むすび：

概観してみると、東アジア全般において「洗濯する女」に関する神話、伝説が分布しているのが分かる。そして、その洗濯する女は必ず子授けや男女の縁結びなどに繋がっている。日本にも、『古事記』から始まり、近世まで、洗濯する女は水辺で縁結びがあったり、孕んだりするのである。したがって、「桃太郎」の中で、洗濯する老婆が川から流れて来る桃を食べ、回春し、子を孕むことは女性の水辺の洗濯と深くかかわっていることが分かる。無論、流れてきた桃から生まれる「果生型」が昔話の中では圧倒的に多いが、子供向きが主流である昔話の中では「果生型」が婉曲で、語りやすいところがあるのも否定できないところである。また、前述したように、「桃太郎」版本形成の初期である江戸時代の文献に「回春型」が先行し、多いということも子孕み、子授けと女の川辺の洗濯とは深くかかわっていることを表している。そのうえ、「桃太郎」の中で、「果生型」にしる、「回春型」にしる、その発端はみな洗濯する婆が川から流れてきた桃を入手してからという前提がある。より婉曲的に「果生型」を選んだとしても、河辺、女、洗濯という要素の役割を否定できないのである。同時にこの女の「洗濯」ということは、水神或いは水の呪力をう受ける行為となり、洗濯には単なる衣服を洗うのみでなく、体を洗うのも含まれ、延いては褌が含まれることになるのである。即ち、洗濯する女は水辺の褌ともかかわるのであり、水の呪力は褌をとおして水辺の女に作用したと考える。

総じて、東アジアにおいて、洗濯する女は水の出産、誕生を助ける力を現していると同時に、引いては水の豊饒をもたらす力を現している。そして、それは、水脈のように日本、朝鮮半島、中国などの神話、伝説の中で潜み、水辺の女の系譜の一環として、洗濯する女として伝承されている。

注

注1：「このように考えてくると、これまでの歴史家の捨ててかえりみなかった極東の島国の小サ子説話、したがって我が桃太郎のごときも、その背後にひそむ母性の姿

を、消えゆく過去の記憶から呼び戻すことによって、はじめてこれを人類文化の悠遠の流れの中に位置づけることができるであろう。日本の小サ子とその母神とともに、とくに水辺に出現することの多いのも、原始の大女神が母なる大地として、月や冥界や龍蛇の類とともに水に結びついていたことを思えば不思議はない。その豊饒力を水に負う大地の女神は、同時に水の神、農の神であった。』『石田英一郎全集』第六巻 筑摩書房一九七八年 二百五十七頁

- 注2：山崎祐子『日本民俗大辞典 上』福田アジオ 新谷尚紀 湯川洋司 神田より子 中込陸子 渡邊欣雄編集 吉川弘文館一九九九年九月一日 九百五十九頁
- 注3：鎌田久子『日本民俗事典』大塚民俗学会編 弘文堂 昭和四十七年二月十五日 三百九十頁
- 注4：金田芳水『桃太郎の研究』公立社 昭和二年十一月二十七日
- 注5：小久保桃江『福祉の原点と桃太郎の研究』講談社 昭和五十二年九月十二日
- 注6：山崎麓 編集, 書誌研究会 改訂『改訂日本小説書目年表』ゆまに書房 一九七七年(書誌書目シリーズ; 六)
- 注7：滑川道夫『桃太郎像の変容』東京書籍 昭和六十二年三月三十一日
- 注8：金田芳水は「桃太郎の話が始めて版本として板行されたのは、享保年間刊行の豆籬本や、藤田秀素筆の古版『桃太郎』あたりであろうか」と言った。金田芳水『桃太郎の研究』公立社 昭和二年十一月二十七日 十五頁
- 注9：小久保桃江『福祉の原点と桃太郎の研究』講談社 昭和五十二年九月十二日 五十五頁
- 注10：滑川道夫前掲書と翻刻版『桃太郎昔語り』『初期草双紙集』近世文学研究「叢」の会 和泉書院 一九九三年五月三十日を参照し、まとめた。
- 注11：桃太郎昔語り』『初期草双紙集』近世文学研究「叢」の会 和泉書院 一九九三年五月三十日
- 注12：『桃太郎』『新編稀書複製会叢書』第五卷全四十六冊 中村幸彦, 日野龍夫編臨川書店刊 平成元年十二月五日と滑川道夫前掲書を参照し、まとめた。
- 注13：滑川道夫前掲書 五頁。
- 注14：島津久基は「果生型」と「若返り型」の二類を命名している。「日本国民童話講座」「少国民文化」、昭和十八年。その後、名村道子は「江戸時代の桃太郎」「国文」十九号、昭和三八年、お茶の水女子大学国語国文学会で、「果生型」と「回春型」と呼んだ。
- 注15：拙論「東アジアにおける洗濯する女——「瓜子姫」を手係りに——」『水門』二十五号 二〇一三年十月(刊行予定)を参照すると、「瓜子姫」が全533話で、そのうち、畑からとったもの或いは植物(瓜、胡瓜、桃、栗、柿など)から直接生ま

金 鳳齡「昔話「桃太郎」に見られる洗濯する女の伝承について」

れたものが69話、婆が川で洗濯する時得た瓜から或いは、瓜を食べて妊娠したものが270話、婆が川から流れて来たもの瓜から生まれたものが35話、外の形の誕生のモチーフが13話、誕生のモチーフがないのが143話になっている。

注16：拙論「東アジアにおける洗濯する女——「瓜子姫」を手係りに——」『水門』二十五号 二〇一三年十月（刊行予定）を参照

注17：『旬五志』原本影印 韓國古典叢書（復元版）IV. 散文類古代評論・隨筆選 大提閣一九七五年五月三十日 三七二頁

**参考文献：**

柳田國男『桃太郎の誕生』『定本柳田國男集』第八卷 筑摩書房 昭和三十七年

滑川道夫『桃太郎像の変容』東京書籍 昭和六十二年三月三十一日

『昔話研究資料叢書』三弥井書店刊 一九六八～一九九二年

稲田浩二監修、福田晃編『日本の昔話』日本放送出版協会 一九七二～一九八〇年

『全国昔話資料集成』岩崎美術社 一九七四～一九七五年

稲田浩二、小澤俊夫編『日本昔話通観』同朋舎 一九七七～一九九八年

小池藤五郎「記録されたる桃太郎古説話の研究上、下」「國語と國文学」第十一卷第二～三号 昭和九年